

特集：私の教育システム情報学マップ：問いの体系化に向けて

教育システム情報学マップ（問いの体系化）に向けたアプローチの検討

—— 知の創造プロセスとしての学会論文誌の分析 ——

大崎 理乃*

An Approach for the Systematic Mapping of Information and Systems in Education

—Analyzing Journal Papers as the Process of Creating Knowledge—

Ayano OHSAKI*

This paper examines an approach to create systematic maps of the Information and Systems in Education. As a project for the 50th anniversary of the Japanese Society for Information and Systems in Education (JSiSE), the author investigated the discussion of scholarly scopes in JSiSE and previous research about the visualization of science and technology knowledge. Furthermore, this paper analyzed the relationships between studies in the recent special issue of JSiSE to propose an idea for creating the maps. Although the investigation and analysis in this paper have several limitations, this study confirms the coherency of the scholarly scopes in JSiSE since this academic society was established and the potential of network analysis about studies in the JSiSE journal.

キーワード：マップ，問い，体系化，教育システム情報学，ネットワーク分析

1. はじめに

2021年秋，教育システム情報学会（JSiSE）の50周年記念事業の一つとしてJSiSEマップ作成ワーキンググループ（以下，JSiSEマップWG）が設置された。このWGのミッションは，教育システム情報学マップ（以下，iSEマップ）を作るとともに，当該研究分野が扱っている「問い」を体系化することである。そして，この取り組みの背景には，本学会が学術的な「問い」を意識した活動を強化していることがある⁽¹⁾。

本稿では，このチャレンジングなミッションの達成に向けたアプローチの検討として，過去の論文誌の調査と探索的分析に取り組んだ結果を報告する。なお，本研究が実施した調査や分析は網羅的なものではなく，これから始まる本格的な検討への情報提供が本稿

の主な目的である。そして，この目的のため，著者の素朴な疑問を手がかりにして検討を行った。具体的には，まず「教育システム情報学」および「マップ」，そして「問い」について，先行する取り組みや議論を調査した。そのうえで，マップ作成のためのアプローチとしてJSiSE論文誌の掲載論文を対象としたネットワーク分析の方法を提案し，2017年から2021年までの特集号論文を対象とした探索的分析を実施した。

2. 先行研究

2.1 教育システム情報学

「教育システム情報学」とは何を表そうとした言葉なのか？ JSiSEは，1995年にCAI学会から教育システム情報学会へ名称を変更した。つまり，変更にあ

* 武蔵野大学データサイエンス学部（Faculty of Data Science, Musashino University）